

のことで、今回の津波避難に際しても職員はその決まり通りに対応している。その後襲ってきたのは浸水高5mの津波であり、体育館の中で多くの犠牲者を発生させてしまった。安全な避難場所は学校校舎の他にも、すぐ裏手の丘陵地帯にいくらでもあっただけに、大いに反省すべき今後の検討課題の1つとして記憶に留めておきたい(写真17, 写真18)。

3.5 石巻市立門脇小学校の場合

石巻市の門脇小学校は、700m前方の海岸まで平坦な住宅地が広がっており、背後には日和山が迫っていることから、前述の野蒜小学校と類似の地理的条件を有しているように思われる(図10)。しかも小学校の西隣の墓地からは、日和山に登る歩行者用の坂道があって、丘陵上への避難は極めて容易である。そして現実の児童たちの丘陵上への避難行動は、教職員の誘導によって滞りなく行われたようである[16]。やがて、近隣の住民も小学校に避難してきたとのことであるが、その後浸水高7mもの津波が来襲し、津波に押し寄せられた自動車等から発生した火災によって校舎の東側半分が延焼している(写真19)。校舎内部に避難していた住民は何とか日和山へ逃れることができたものの、校庭に避難していた一部の近隣住民は車ごと犠牲になられたようである。



写真19 津波火災を受けた門脇小学校(2011.8.11.撮影)
児童たちはいち早く背後の高台に避難していた。

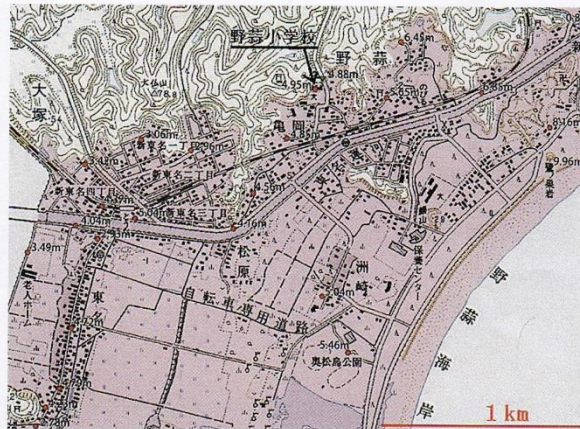


図9 東松島市野蒜地区の津波浸水分布
(原口・岩松[11]による)



写真17 緊急避難場所となった野蒜小学校の体育館(2013.6.1.撮影)
体育館に避難していた人々はその高さ5mの津波に襲われた。



写真18 高さ5mの津波に襲われた野蒜小学校(2013.6.1.撮影)

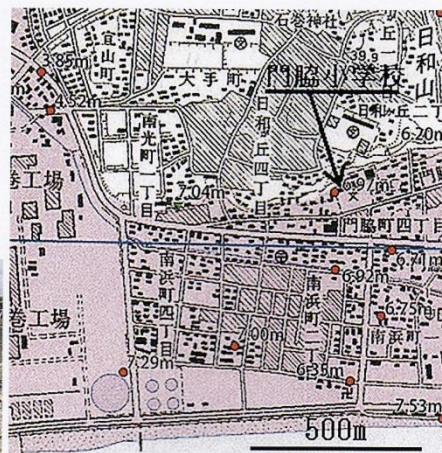


図10 石巻市門脇地区の津波浸水分布(原口・岩松[11]による)